



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「ユダヤ人もギリシャ人も皆、罪もとの下にあるのです」

聖書(ローマ書3章9節)

牧師 河合裕志

これはユダヤ人にはきつい言葉。ユダヤ人が聞いたら怒り出す。だって彼らは自らを神の選民として正しく生きていると誇っていた。なっていないのはギリシャ人、異邦人、彼らは神の律法を知らず守らず、まさに罪の下にある、神の怒り、裁きの対象。こうユダヤ人は見ていた。

しかし冷静なパウロからすればユダヤ人もギリシャ人も、つまり全人類は罪の下にあると映っていた。その証拠を以下にパウロは旧約聖書のあちこちより引用して見せる。

「正しい者はいない。ただの一人もいない」「善を行う者はいない。ただの一人もいない」「彼らは舌で人を欺き、その唇にはまじし蝮の毒がある」「足は血を流すのには速く、その道は破壊と悲惨がある。彼らは平和の道を知らない」「彼らの目には神への畏れがない」

これだけ言われたらどうだろう。なお無事でいられるだろうか。皆、罪の下にある、私もその中にある、と言わなければならないのでは。

① まず言葉の上での罪ということ。私達はずい舌で人を欺くことをする。上手にウソをつく。本当だと思わせる。だ

ます。時にそのようにして相手に損害を与える。高じれば人を殺すことも。

「その唇には蝮の毒」はそのことを言っている。バカ、死ね、と言われて、これが短刀のように胸にグサッと来て実際死に至らせることもある。

②戦争の罪ということ。70年前、日本は戦争に敗れた。甚大な損害をもたらした。誰の責任。当時の指導者達の責任。それに違いない。一般国民は責任がなかった？罪がなかった？そんなことはない。国民も一生懸命に戦争に協力した。協力させられた。どちらにしても戦争協力は事実。国民も責任追及は免れないのでは？こうして「破壊と悲惨」の道をつつ走った。勿論戦勝国も罪なしとしない。アメリカはわが国の方方を焼土とし多くの人命を奪った。とに角戦争はやっちゃいけない。戦争位、罪深い行為はない。

以上二つの罪の場合をあげてみた。もっといろいろな例をあげることが出来る。それらはすでにローマ書1章2章に沢山に述べられている。誰も彼も皆、罪の下にある。

人間皆、ざむと罪人。これは認めない訳にはいかないのでは？パウロはそこに人間を追い込む。追い込んでどうする。それは悪い趣味じゃない？いや、そこから人間の歩む新しい道を示そうとする。明るい道を指し示そうと。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時